

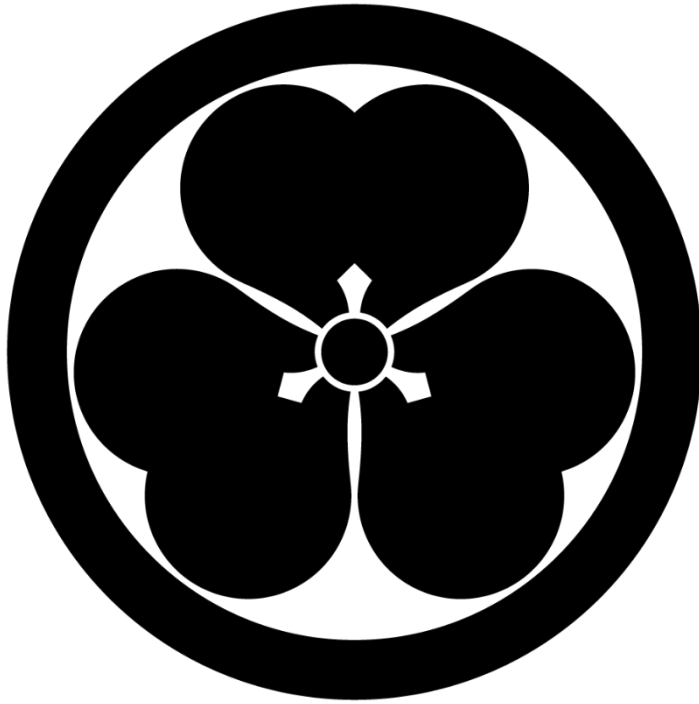
幾代会 観 察 会 (2022年6月) の ま と め

- ◆日 時 2022.6.5(日)
- ◆散策場所 あきる野市地蔵院と八雲神社
- ◆ポイント アジサイとカゴノキを求めて
- ◆散策ルート :東秋留駅～地蔵院～秋川河川敷(昼食)～慈眼寺～八雲神社～薬師堂
普門寺～東秋留駅
- ◆参加者 武藤、土方、羽深、宇津木、浅井、石川、須崎、太田、岡、大村(ゲスト参加)
と越前の11名です。敬称略、下見5月14日 5名



- ◆感想 参加者からの一言
- ・珍しい木と神社を見られて良かった
- ・趣が有るところを巡れ巨木が見られた
- ・タイサンボクやオオヤマレンゲなど白い花が良かった
- ・タイサンボクや鶯が解って良かった
- ・久しぶりに来て秋川が変わったが、忘れないようにしたい

- 全て初めてでカゴノキやボダイジュが見られて良かった
- あきる野の地藏院は初めてで春も来てみたい
七福神も有って散歩道が良い
- お寺ならではの木が見られて良かった
- 多くの参加者の目で見ることで色々とアドバイスを得られて本当に良かった



◆6月の植物観察会のポイント

●カタバミについて

秋川の河川敷では黄色い花を付けたオッタチカタバミが見られた。良く見ると実は1cぐらいのロケットのような形で中には小さな種子がビッシリと入っていて、まき散らすので子孫繁栄のシンボルとして戦国武将の家紋にされた。

由来は夕方に葉を閉じて掛けたように見え、放射冷却を防いで、我々が学ばなければならない省エネのモデル。

又、曇りの時には虫が訪れないので



地藏院 カゴノキ



シンジュ

花を閉じている。

現代人が見向きもしない小さな植物の生きる知恵から武家の家紋にした戦国武将の素晴らしさに驚きました。



●アジサイの種類と進化について

ガクアジサイと山紫陽花が日本に自生し、ガクアジサイは突然変異しやすく品種改良しやすいので江戸時代にヨーロッパに持ち込まれ品種改良され、装飾花が手毬

状に咲く西洋紫陽花が生まれた。

●アジサイの色の变化と生きる特性(知恵)について

アジサイはアルカリ性で赤、酸性で青い花が咲く。装飾花に液胞という液体で満たされた袋が有り、中にアントシアニンが含まれている。

土壌中のアルミニウムを吸収するとアントシアニンと作用して青い色素が出来て青く見える。酸性土壌ではアルミニウムは水に溶け出しやすく吸収しやすいのでアジサイは青い色に成る。

植物は金属をため込む種類が有りユーカリやヤブムラサキは金をため込むので、オーストラリアではユーカリの葉を分析して金鉱脈を見つけている。

落葉は寒さと乾燥から植物を守るが毒を捨てる性質もある。有毒な金属に耐える植物のメリットは競争相手が少なく動物に食べられにくいので植物が生きていく特性の一つ

●ガクアジサイとヤマアジサイの見分け方

| | うぶ毛 | 葉 | 背丈 | 開花時期 |
|--------|-----|----------|----|---------|
| ガクアジサイ | 少 | 厚めでやや光沢有 | 高い | 6月中旬～7 |
| ヤマアジサイ | 多 | 薄めで、光沢無 | 低め | 5月下旬頃～6 |

◆散策路の植物

6月の散策路の植物は大村さんに作って貰った表を掲載します。

チャレンジして貰い有難うございました。

越前記